

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月3日 (土)

会場 日立市民運動公園中央体育館

【男子の部】 第2日目 Aコート 第4試合

チームA 県立能代工業 秋田	110	{ 24 1Q 16 36 2Q 19 22 3Q 24 28 4Q 17 OT	76	チームB 県立八千代 千葉
----------------------	-----	---	----	---------------------

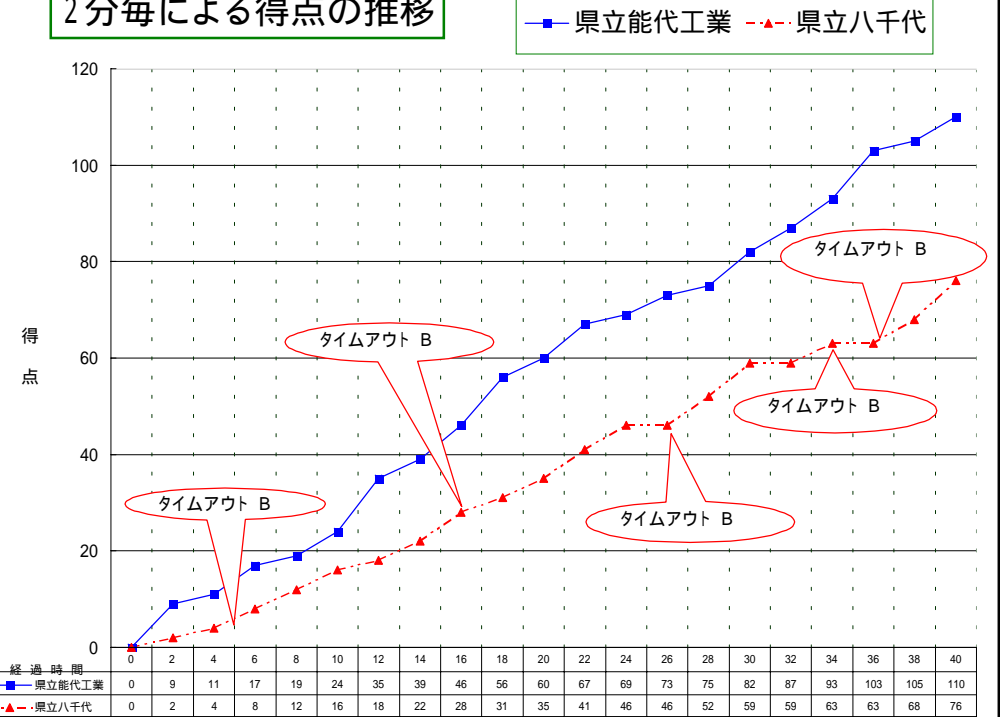
県立能代工業

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	黒政 成広	7	1	1	2	4	0	2	2	1	2	5	5	9	0	35
5	高久 順	39	0	0	17	18	5	8	1	9	4	3	2	0	7	35
6	吉田 政徳	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
7	内海 慎吾	17	4	9	2	5	1	1	3	2	7	0	0	2	1	35
8	富田 敏幸	13	3	8	0	8	4	4	3	0	5	4	2	3	0	35
9	高橋 優	22	6	24	2	4	0	0	2	1	2	0	4	2	0	35
10	梅津 敬介	2	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	1	4
11	土崎 貴宏	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
12	柴田 博満	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	5
13	宮城 徹	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
14	梁川 禎浩	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15	二田 洋志	5	0	0	2	3	1	2	0	1	2	0	0	0	1	5
コーチ	加藤 三彦															
		110	15	45	26	47	13	19	11	15	24	15	13	18	10	200
		確率	33.3%	55.3%	68.4%					計	39					

県立八千代

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	庄村 裕介	17	1	1	6	13	2	2	1	0	2	7	0	6	0	31
5	村上 憲史	2	0	0	1	5	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9
6	角谷 尚謙	21	1	2	9	17	0	0	4	0	2	3	1	1	0	22
7	横井 健	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8
8	結城 博志	7	1	1	2	3	0	1	2	0	2	1	0	0	0	31
9	菊地 哲平	1	0	1	0	0	1	2	2	0	0	1	2	1	1	9
10	井上 拓也															DNP
11	小泉 雅人	2	0	0	1	4	0	0	1	0	2	0	0	0	1	19
12	加藤 隆一	20	4	15	4	12	0	0	3	0	2	2	4	4	0	28
13	福原 大輝	0	0	0	0	1	0	0	2	1	3	0	1	0	1	18
14	藤橋 洋輔															DNP
15	綿貫 史宏	6	0	0	3	8	0	0	4	0	4	0	1	0	1	25
コーチ	中嶽 誠															
		76	7	20	26	63	3	5	20	1	17	16	9	12	4	200
		確率	35.0%	41.3%	60.0%					計	18					

2分毎による得点の推移



戦評

本大会これが初戦となる能代工業と一回戦で5人を一度に交代することで、2種類のオールコートゾーンプレスを巧みに使い分ける試合展開を見せた八千代の対戦。

開始から能代工業はオールコートで当たり早い展開に持ち込む。激しいディフェンスからスティールし#5高久の1マン速攻からのダンクシュートで勢いづく。第1P中盤にも同じようなダンクを見せ能代工業19-8と11点のリードを奪う。八千代もディフェンスを変え能代工業のミスを誘う。終盤八千代が粘りを見せ能代工業が24-16と8点差で第1Pを終える。第2Pに入ると速い展開から#8富田や#9高橋が3Pを決め能代工業42-22と一気に20点差をつける。八千代も#12加藤が連続3Pで応戦するが、能代工業にゴール下を支配され、じりじりと点差が開き結局60-35と能代工業25点リードで前半終了。

第3P八千代はディフェンスを頑張り、#4庄村や#12加藤のシュートで盛り返すが、ゴール下で能代工業に及ばず、点差をつめられないまま能代工業82-59で第3Pを終える。第4Pに入ると能代工業の攻撃が爆発。#5高久のゴール下シュートや#7内海の3Pなどで得点し一気に試合を決めた。結局能代工業が110-76で勝利。#5高久は39得点13リバウンド7ブロックショットと大活躍であった。

主審 平育 雄

副審 倉口 勉

記入者 野崎 環